

農作業コツのコツ

【第12号】
令和3年7月10日
福光農業改良協議会
砺波農林振興センター南砺班
福光農業協同組合 営農部

早生

穂肥成分が溶出しています。適切な水管理で土壌水分を保ち、稲体の活力を維持しましょう。

水稻の生育は、早生品種、てんこもりでは平年並み、コシヒカリでは平年より2日遅くなっています。茎数は平年並みに回復しましたが、今後の水管理が収量・品質に影響しますので引き続き、こまめな管理を行いましょ。

暑い夏を乗り切るためにも、各ほ場の生育に応じた適切な**穂肥施用**と**水管理**、斑点米カメムシ類の**防除**を徹底しましょう。

水稻の生育状況

(移植7月6日、直播7月8日：福光農業改良協議会 良質米実証田生育調査結果)

品種名	田植日		草丈(cm)		株当たり茎数(本)		葉齢(葉)		葉色		幼穂形成期 ※R3は予想日		
	R3	平年	R3	平年	R3	平年	R3	平年	R3	平年	R3	平年	
コシヒカリ	5/14	5/13	64.9	65.6	22.4	21.8	11.7	11.7	4.0	4.1	(7/12)	7/10	
てんこもり	5/7	5/8	58.8	57.0	35.6	32.9	12.7	12.5	4.5	4.2	(7/14)	7/13	
密苗	コシヒカリ	5/14	5/15	63.8	61.6	21.5	30.1	11.5	11.8	4.2	4.2	(7/15)	7/13
	てんこもり	5/8	5/10	54.5	57.4	33.1	35.1	12.5	12.5	4.1	4.3	(7/14)	7/13
直播	カルパーコシ	4/29	4/30	65.2	64.4	171	161	10.8	11.1	4.0	4.0	(7/16)	7/14
	鉄コ コシ	5/5	4/29	58.7	63.1	175	168	11.4	11.2	4.5	4.2	(7/16)	7/16
	鉄コ てんこ	4/27	5/1	52.2	55.9	202	209	12.0	11.9	4.4	4.3	(7/22)	7/20

調査筆数：コシヒカリ3筆 てんこもり2筆 密苗コシヒカリ3筆 密苗てんこもり1筆 直播は各2筆
※移植直播の田植日は播種日、株当たり茎数はm当たり茎数

水稻

1 穂肥施用

(1) とみちから、五百万石

出穂前に葉色を再度確認し、**とみちからは葉色4.5以下、五百万石は葉色4.2以下**の場合は、**走り穂の時期(7/13頃)までに追肥3号**を10a当たり**10kg施用**し、登熟能力の向上を図りましょう。

○出穂期予想

	田植日	出穂期予想
とみちから	5月3日	7月16日
五百万石	5月2日	7月16日

(2) コシヒカリ

①**肥効調節型基肥体系**(基肥：Jコートコシヒカリ2号)の場合
原則、穂肥の施用は不要です。

②**分施肥体系**(基肥：基肥555)の場合

幼穂長15mm頃の時期(5月14日植えて7月19日頃)に生育状況を確認し、下表に基づき、追肥3号を施用しましょう。

○幼穂長15mm頃のコシヒカリの姿

草丈	82cm以下	83~85cm	86cm以上
葉色	3.6程度	3.8程度	4.0以上
稲の姿等	ガッチリしている	ややメラついている	メラつく

○穂肥の目安

1回目	施用時期	幼穂長15mm (幼穂形成期から7日後)	幼穂長20mm (幼穂形成期から9日後)	施用しない	
	10a当たり施用量	10kg	7~10kg		
2回目	施用時期	1回目の1週間後	1回目の1週間後	幼穂形成期から2週間後	
	10a当たり施用量	粘質土以外	12kg	12kg	12kg以下
		粘質土	11kg	11kg	11kg

※施用量等、詳しくは地区担当指導員に問合わせください。

コシヒカリ

生育状況を見て穂肥は慎重に。

てんこもり

葉色が淡い場合は直ちに追肥を。

(3) てんこもり

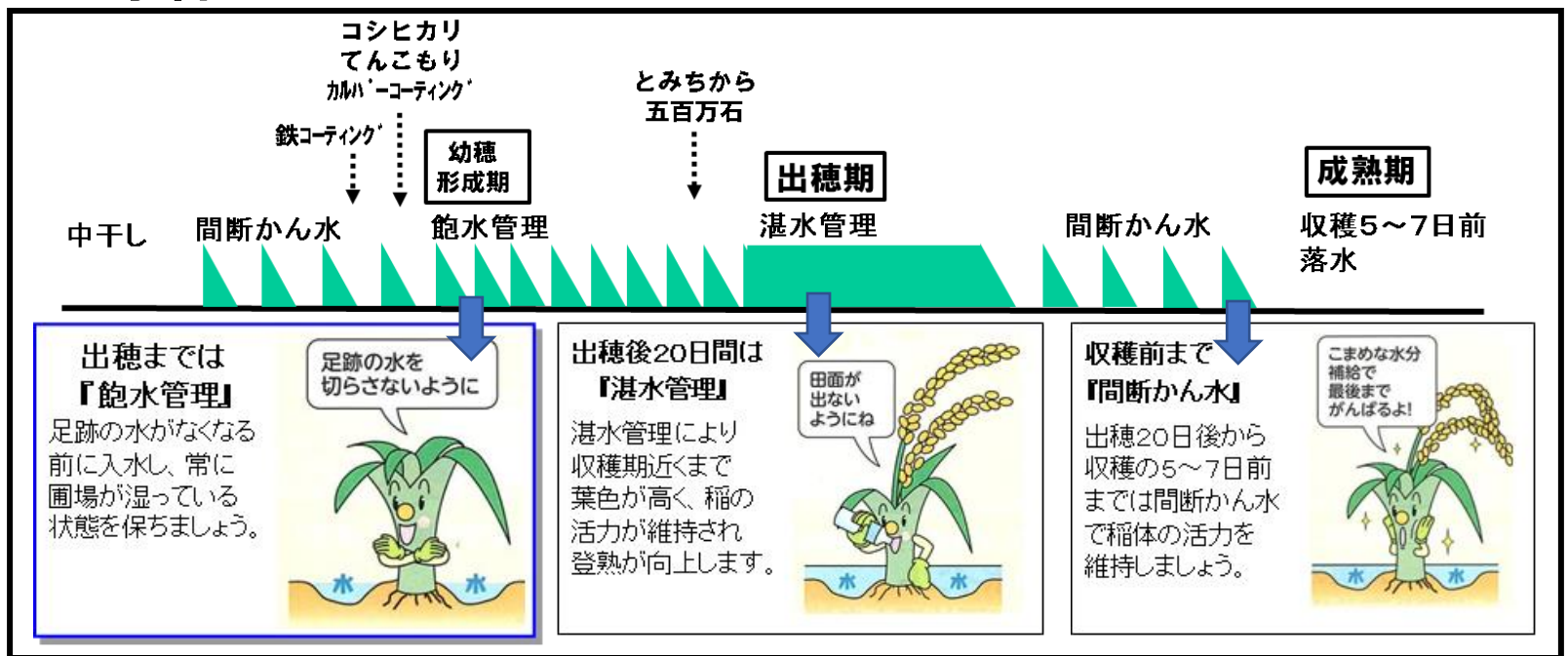
①**肥効調節型基肥体系**（基肥：LPss 晩生専用）の場合

- ・原則、穂肥の施用は不要です。
- ・ただし、幼穂形成期前後(7/14頃)に**葉色が4.0**を下回ると見込まれる場合は、**直ちに追肥3号**を10a当たり**11kg程度施用**しましょう。

②**分施肥体系**（基肥：基肥555）の場合

1回目穂肥は**幼穂長1mm**（5月7日植えて7月12日頃）を確認したら**直ちに**11kg/10a、2回目穂肥は1回目穂肥の10日後に13kg/10aを施用しましょう。

2 水管理



(1) とみちから、五百万石

出穂期までは**飽水管理**、出穂後は20日間の**湛水管理**とし、稲体の活力を維持しましょう。

(2) コシヒカリ、てんこもり、直播

- ・幼穂形成期までは**間断かん水**、その後は出穂期まで**飽水管理**を行い、足跡に水が残る程度の湿潤状態を保ちましょう。
- ・密苗のほ場や慣行苗でも葉色が濃く、ほ場が軟らかい場合は、幼穂形成期後も**間断かん水**を継続しましょう。

3 病虫害防除（早生）

適期に2回の防除を徹底し、カメムシ類による斑点米の発生を防ぎましょう。

○早生の防除時期の目安

	1回目	2回目
防除時期	穂揃期（穂が全体の90%出た頃） 7月17日～21日	傾穂期（穂揃期の1週間後） 7月24日～28日
液剤 (無人航空機)	ビームエイトスタークルゾル 8倍、0.8ℓ/10a	キラップフロアブル 8倍、0.8ℓ/10a
粉剤	ビームスタークル粉剤5DL 4kg/10a	キラップ粉剤DL 4kg/10a

- (注) ① 1回目防除と2回目防除の間隔は7日間とし、10日以上空けないようにしましょう。
 ② 農薬を散布する際は、周辺の野菜等他作物や住宅地への飛散防止に努めましょう。
 ③ 無人航空機での散布の際は、電線・電柱等への接触事故に注意しましょう。
 ④ 早生品種は2回目防除後もカメムシ類が多い場合は、トレボン粉剤DLで追加防除しましょう。
 ⑤ 中生・晩生・直播については次号でお知らせします。

カメムシ類を抑えるため、雑草の穂が出ないように基本防除までこまめに草刈りを。